

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜こども総合科＞

科目名	就職対策講座Ⅰ	
担当教員の実務経験	幼稚園教諭経験者	
対象学生	こども総合科3年	
授業時間数・単位数	30コマ	・ 2単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育者として必要となる技術の習得</li> <li>・ 就職活動または保育現場に必要な書類の書き方等の指導を行う</li> </ul>	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義、演習を通して今後になかしていくことができる技術の習得</li> <li>・ 希望就職先の内定</li> </ul>	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（60点未満）とする。試験結果、出席率、提出物等を総合的に判断して評価する。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	駒井美智子「すぐに使える！！笑顔いっぱい！あそびのレシピ」大学図書出版 阿部恵 他「教育・保育実習安心ガイド」ひかりのくに 大元千種「書き方・あそび・保育のコツがわかる 実習日誌と指導案サポートブック」ナツメ社	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み取る 子どもの最善の利益のための配慮を学ぶ		2
現場における保育環境についての理解 物の配置、教材・教具の準備、安全と衛生管理等		1
保育者の役割・子どもへの理解 保育者の立ち振る舞いとは（挨拶、掃除、食事、身だしなみ等）		1
保育技術の習得、発表① 教材研究（手遊び）		1
保育技術の習得、発表② 教材研究（絵本、紙芝居）		1
保育技術の習得、発表③ 教材研究（折り紙）		1
保育者に求められる質とは何か1 「使命感、責任感、社会性・対人関係能力」		1
保育者に求められる質とは何か2 「乳幼児の理解、発達に応じた援助、学級経営」		2
保育者に求められる質とは何か3 「保育内容の指導力」		2
保育技術の習得、発表④ 教材研究（製作活動）		2
保育技術の習得、発表⑤ 教材研究（壁面制作）		3
保育技術の習得、発表⑥ 教材研究（ペープサート・パネルシアター・エプロンシアター）		4
指導計画の立案・指導案の作成 （ねらいと内容、環境構成、援助、留意点など）		2

模擬保育実践 指導案をもとに模擬保育を行う	2
振り返り・反省	1
志望動機	1
履歴書の書き方	1
自分が目指したい「保育者」としての専門性をより向上させるためにこれから力を入れたいことは何か、自分の理想像とは何かをまとめる。	2
	合計 30
	授業単位数 2

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜こども総合科＞

科目名	臨床心理学	
担当教員の実務経験	臨床心理士経験	
対象学生	こども総合科3年	
授業時間数・単位数	75 コマ	・ 5 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	臨床心理学は、心理的な障害や問題に悩む人の適応や発達、自己実現を専門的に援助する実践について研究する学問である。そのため、まず、発達の観点からの臨床心理学的人間理解として、乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期の心理的な課題と問題について学ぶ。また、心理アセスメントの様々な側面と方法について学び、さらに、様々な臨床心理学的援助の方法についても概説する。その上で、臨床心理学的実践の様々な領域についての学修を重ねて、実践的な臨床心理学的な視点や思考方法を身につけていく。	
授業の到達目標	各ライフステージの特徴と発達課題を理解する。 心理アセスメントや臨床心理学的援助の方法を学習したうえで、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	野島一彦『臨床心理学への招待』 ミネルヴァ書房。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
臨床心理学とは何か、教科書pp. 2-4 を精読して、精神医学との対比から理解する。		1
臨床心理学の学問的背景について、教科書pp. 10-17 を熟読して、歴史的観点から理解する。		1
正常と病理の概念について、教科書pp. 20-26 を熟読して、様々な観点からの理解を深める。		1
乳幼児期から児童期までの発達特徴と臨床心理学的な発達課題について学修する。教科書pp.27-38 を熟読して、健康な発達の様相を理解した上で、それぞれの発達期の心理的問題について学修する。		1
青年期の心理と臨床心理学的問題を学ぶ。教科書pp.38-45 を熟読し、青年期の発達課題と現代がもつ青年期の問題について理解する。		1
成人期と老年期の心理について学ぶ。教科書pp. 45-54 を熟読し、それぞれが持つ発達の課題と危機について理解する。		1
心理アセスメントの理解(見立てと診断の違い)とその多様性を知る。教科書pp.56-65 を通読し、実際の心理アセスメントについて理解する。		1
心理面接によるアセスメントについて、教科書pp.66-76 を熟読し、実践的な方法と実際場面で起こりうる問題とその対応について学修する。また、教科書pp.84-88 を熟読し、行動観察によるアセスメントについても理解する。		1
心理テストによるアセスメントについて、教科書pp.77-83 を熟読し、心理テストを実施するにあたっての諸問題を理解し、その多様な種類とテストバッテリーについて学ぶ。		1
臨床心理学的援助の方法として、代表的なものを学修する。教科書 pp.90-112 を通読し、精神分析療法、行動療法、クライエント中心療法の考え方を理解する。		1
臨床心理学的援助の方法として、対話以外の方法を用いた心理療法について学修する。教科書pp.113-131 を通読し、遊戯療法、芸術療法、催眠・自律訓練法を知る。また、教科書pp.132-146 を通読し、日本で開発された心理療法を知る。		1
臨床心理学的援助の方法として、家族・集団・地域社会へのアプローチを学修する。教科書pp.170-173 を熟読し、家族療法を知る。教科書pp.173-178 を熟読し、グループ・アプローチを知る。また、教科書pp.178-182 を熟読し、コミュニティー・アプローチとは何かについて理解する。		1
教育・福祉・司法のそれぞれの領域における臨床心理学的実践について学修する。教科書pp.184-188 を通読し、学校現場での教育相談について知る。教科書pp.189-193 を熟読し、福祉現場の心理臨床を知る。教科書pp.194-198 を通読し、司		1

法・矯正の領域での様々な実践現場を知る。	
医療の領域における臨床心理学的実践について、教科書pp.199－203を熟読し理解する。また、産業の領域における臨床心理学的実践について、教科書pp.204－208を熟読し理解する。	1
地域における臨床心理学的援助について学修する。教科書pp.209－213を熟読し、地域における心理臨床家の役割を理解し、他機関との連携の在り方について学ぶ。教科書pp.214－219を熟読し、開業心理臨床の実際について理解する。	1
レポート作成、添削指導	60
	計 75
	授業単位数 5

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜こども総合科＞

科目名	教育法規	
担当教員の実務経験	幼稚園教諭経験者	
対象学生	こども総合科3年	
授業時間数・単位数	75 コマ	5 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	本科目では、幼稚園、小学校、中学校教諭等の教員を目指す人たちが教育法規に関する基礎的な知識を身につけ、教員採用選考試験問題を解けるようになること。そして教員となった折には、その知識を用いて学校における法的な諸課題に対応できるようになることを目標とする。	
授業の到達目標	1)教育法規を体系的に理解し、その主な内容について説明することができる。 2)教員や教員採用選考試験受験生にとって必要最低限の教育法規に関する基礎知識を理解し、重要な用語について説明することができる。 3)学校におけるさまざまな課題の中で、法的な観点から解決できる内容について根拠条文を明らかにして説明することができる。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	山本豊『第三版 有権解釈に重きを置いた教育法規』学校図書。	
授業上の注意点		
<b>授業計画（内容）</b>		<b>コマ数</b>
教育法規を学ぶ意義(教科書pp.18-19) 第1章 教育法規の体系と構造(教科書pp.20-29) 1. 教育法規とは 2. 法体系と法の形式・形式的効力 3. 国の主な法令 4. 地方の主な法規 5. 法令間の矛盾抵触を解決するための諸原理		1
第2章 日本国憲法の教育に関連する規定(教科書pp.30-37) 1. 教育を受ける権利 2. 義務教育 3. 法の下での平等 4. 信教の自由 5. 学問の自由 6. 公務員の選定罷免権、公務員の本質 7. 思想及び良心の自由		1
第3章 教育基本法 ①(教科書pp.38-44) 教育基本法の改正 1. 前文 2. 各条文     第一章 教育の目的及び理念 (1)教育の目的 (2)教育の目標 (3)生涯学習の理念 (4)教育の機会均等		1
第3章 教育基本法 ②(教科書 pp.45-59) 第二章 教育の実施に関する基本 (1)義務教育 (2)学校教育 (3)大学 (4)私立学校 (5)教員 (6)家庭教育 (7)幼児期の教育 (8)社会教育 (9)学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力 (10)政治教育 (11)宗教教育 第三章 教育行政 (1)教育行政 (2)教育振興基本計画第四章 法令 の制定 (1)法令の制定		1
第4章 学校教育 ①(教科書pp.60-77) 1. 学校 2. 学校の設置と管理 3. 学校の組織編制と配置職員 4. 校長及び教員等の配置 5. 学校の運営		1
第4章 学校教育 ②(教科書 pp.77-94) 6. 学校教育の目的とそれを実現するための目標 7. 教育課程 8. 教育要領と学習指導要領		1
第4章 学校教育 ③(教科書 pp.94-106) 9. 教科書の使用義務と補助教材 10. 備付表簿等とその保存期間 11. 学年・学期・授業日・休業日		1
第5章 児童・生徒 ①(教科書 pp.108-139) 1. 義務教育 2. 義務教育諸学校の入学・転学・退学・卒業等 3. 児童・生徒等への懲戒・体罰の禁止		1
第5章 児童・生徒 ②(教科書pp.140-147) 4. 出席停止 第6章 学校保健・安全・給食(教科書pp.148-174) 1. 学校保健 2. 学校安全 3. 学校給食		1
第7章 特別支援教育(教科書 pp.176-187)		1

特殊教育から特別支援教育へ 1. 特別支援学校 2. 特別支援学級 3. 通級による指導	
第8章 教職員 ① (教科書 pp.188-212) 1. 教職員の職務 2. 教職員の資格 3. 教育職員免許法	1
第8章 教職員 ② (教科書 pp.212-244) 4. 教育公務員 5. 採用・昇任・降任・転任 6. 服務	1
第8章 教職員 ③ (教科書pp.244-277) 7. 分限及び懲戒 8. 研修 9. 給与、勤務時間その他の勤務条件	1
第9章 教育行財政 (教科書 pp.278-311) 1. 国と地方の役割分担 2. 国・文部科学省 3. 地方・教育委員会 4. 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 5. 管理及び経費の負担	1
第10章 その他の教育関連法規 (教科書 pp.312-365) 1. いじめ防止対策推進法 2. 児童虐待の防止等に関する法律 3. 国家賠償に関する法 4. 学校図書館法 5. 社会教育に関する法	1
レポート作成、添削指導	15
	計 75
	授業単位数 5

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜こども総合科＞

科目名	カリキュラム論	
担当教員の実務経験	幼稚園教諭経験者	
対象学生	こども総合科3年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	乳幼児保育における長期的見通し、保育担当者の共通認識、指導計画の重要性と計画の作成法を扱う。また、「計画・実践・反省・計画の改善」の関連性についての事例を理解するとともに、保育の省察から子ども理解と保育の見直しについて掘り下げ、一人ひとりに即した保育の実践能力を培う。	
授業の到達目標	指導計画の重要性を理解したうえで、計画・実践・反省・計画の改善までの関係性を学ぶ。 教育課程の意義と編成の方法を理解し、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	授業内容に係る講義に加えて、レポート添削等の演習を実施	
使用教科書・教材・参考書	神長美津子、他『新保育シリーズ 教育課程・保育課程論』光生館。	
授業上の注意点		
<b>授業計画（内容）</b>		<b>コマ数</b>
保育における計画の重要性を理解する（教科書第1章） ・「カリキュラム」、「教育課程・保育課程」の意味することを理解する。		1
幼児期の学習の特質を理解する（教科書第2章） ・遊び、生活を通しての学びと系統的な学習との違いと関連を理解する。		1
経験カリキュラムと系統的カリキュラム（教科書第1章 第1節、第2節、第3章） ・カリキュラムにおける系統性と子どもの経験との関連を理解する。		1
幼稚園における教育課程の意義と編成の基本の理解（教科書第4章） ・教育課程に関する法律と教育課程編成のしかたを理解する。		1
保育所における保育課程の意義と編成の基本の理解（教科書第5章） ・保育課程の編成内容（養護と教育、家庭との連携等）を理解する。		1
教育課程・保育課程の編成の実際（教科書第6章） ・教育・保育課程編成の手順、形式、記入内容を例を通して理解する。		1
教育課程・保育課程と指導計画の関係（教科書第7章） ・指導計画の必要性、教育課程・保育課程から指導計画をどのように作成するかを理解する。		1
幼稚園における長期指導計画（教科書第8章 第1節、第2節） ・幼稚園における年間、期間、月の計画の目的内容を理解し、事例を参考に作成してみる。		1
保育園における長期指導計画（教科書第9章 第1節 第2節） ・保育園における年間、期間、月の計画の目的内容を理解し、事例を参考に作成してみる。		1
幼稚園における短期指導計画（教科書第8章 第2節 第3節） ・幼稚園における週案、週日案、日案の目的と内容を理解し、事例を参考に作成してみる。		1
保育園における短期指導計画（教科書第9章 第3節） ・保育園における週案、週日案、日案の目的と内容を理解し、事例を参考に作成してみる。		1
指導計画と保育実践（教科書 第8章 第9章） ・これまで学んだ指導計画作成上の配慮点から、計画を実践に移す際の配慮点をまとめてみる。		1
保育の記録と反省（教科書 第10章、参考文献）		1

・保育における記録の重要性と記録の仕方、及び月、週、日の保育の反省の仕方、反省の観点の違いを学ぶ。	
保育の評価と計画の改善（教科書 第10章、参考文献） ・長期計画、短期計画について、計画かどのように実践されたか、そこから次の計画をどう修正するかを事例を通して学ぶ。	1
教育課程・保育課程の展望（教科書 第11章） ・社会の保育ニーズ、保育制度の変化と教育課程・保育課程の内容との関連、他国の保育(教育)課程の考え方を考察する。	1
レポート作成、添削指導	60
	計 75
	授業単位数 5



## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜こども総合科＞

科目名	保育・教職実践演習	
担当教員の実務経験	幼稚園教諭経験者	
対象学生	こども総合科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [   ]	
授業の概要	<p>本科目は、これまで修得した保育の専門知識の振り返りによって保育の専門的基礎力の定着を図ること、及び専門的知識技能の実践への応用、課題解決能力を高めることの二点が目標となっている。ここでは前者を踏まえながらも後者を中心に現在の保育実践上の課題、子どもや子育てに関する環境上の諸問題を自ら発見し、その改善に向けての方策を考え、実行することができるよう、問題発見能力、課題解決能力、実践への積極的態を養う。そのため現在の保育問題(少子化、保育制度、子育て支援、幼小連携等)についてよく調べ、身近な具体的課題を設定し、テーマ毎に研究、グループ討議、研究発表を行う。</p>	
授業の到達目標	<p>これまで修得した保育の専門知識の振り返りによって保育の専門的基礎力の定着を図る。 専門的知識技能の実践への応用、課題解決能力を高める。</p>	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	<p>横山文樹、駒井美智子編著『保育・教職実践演習』大学図書出版。社会福祉法人日本保育協会『保育所保育指針』。 文部科学省『幼稚園教育要領 解説』フレーベル館。 福本俊監修、駒井美智子、他著『幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック』大学図書出版。</p>	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
保育をするとはどのようなことか、保育実践の特殊性と保育者に必要な専門的スキルとはどのようなことかをまとめる。保育者の責任と倫理を理解する。		1
子どもの最善の利益を考慮した保育：現在「子どもの最善の利益を考慮した保育」がキーワードであるが、その意味を考え、保育者としての使命はどのようなことか、実現における問題点は何かを考える。		1
幼児教育者に求められているもの①日本の子育て環境の問題点について：少子高齢化社会、学歴社会、伝統的な子育て観、ライフワークバランス問題等を新聞、雑誌その他の最新資料から集めて、整理する。		1
幼児教育者に求められているもの②日本の保育制度の問題点について：保育経営者、保育者、保護者の立場から考えたり、意見交換をする。		1
幼児教育者に求められているもの③保育環境の問題点を補うための方策：現在の問題点を政治的、経済的立場、保護者の立場、子どもの立場から考える。		1
保育環境の改善①子どもの安全と安心のための環境：乳児保育における保育者の気配り、保育の時間的空間的死角、安全確保のための心構え、保育者の連携等についてまとめる。		1
保育環境の改善②子どもの活動発展のための環境：子どもの自発的活動を発展させるための環境構成を考える。		1
保育環境の改善③地域との連携協力：日頃地域の人とどのような関係を作るか、互いに協力して地域の子どもを育てる意識をつくるための保育者としての工夫を考える。地域行事への参加、地域の人々の保育参加の例などを集める。		1
総合的な実践の結びつき①保育者としての基本的なふるまい方（公平性、真実性、相手の尊重、社会的マナー、生活習慣、言葉遣い等）保育場面を限定してロールプレイをし、自己反省をする。		1
総合的な実践の結びつき②子どもの内面理解と受容：信頼関係の形成の重要性を確認し、かかわりの実際事例を幾通りも考え、その効果を考察する。		1

総合的な実践の結びつき③子どもの活動発展のためのかかわり:物の活用、共感、参加、誘導などを、具体的場面を想定して考え、多様な観点から考察する。	1
総合的な実践の結びつき④保護者とのかかわり:支援の仕方、保育者のニーズにどう応えるか。事例を出してロールプレイを行う。	1
総合的な実践の結びつき⑤保育教材の創意工夫:身近な材料を用いて手作り教材を手軽に作成する習慣を作る。(子どもと一緒に作るもの、遊びの媒介になるもの、絵本やパネルシアターなど児童文化教材など)	1
保育者としての向上①:保育者の振り返り、保育カンファレンス、相互評価から、常に他に対して開放的、建設的な態度、向上心を形成する。	1
保育者としての向上②:保育の世界の動向、重要性の確認から、保育者としての自己課題、互いの長所短所の整理などを通して、保育者としての自覚を促す。	1
	計 15
	授業単位数 1

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜こども総合科＞

科目名	保育相談支援演習	
担当教員の実務経験	幼稚園教諭経験者	
対象学生	こども総合科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [   ]	
授業の概要	保護者に対する相談支援がなぜ必要か、保育士の専門性を生かした支援の特徴を考え、子どもの利益を守り、保護者の問題解決を図る支援の実際を知る。保護者と信頼関係を結びながら、ともに育てる関係作りや地域との関係諸機関との連携の仕方などを学修し、児童福祉施設全般の保育相談への対応、展開ができるようにする。	
授業の到達目標	保育相談支援の方法と技術を学ぶ。また環境を通じた保育相談支援について理解をしたうえで、レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	咲間まり子編著『事例で学ぶ「保育相談支援」』大学図書出版。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
保育相談支援について		1
保育相談支援の定義・学ぶ内容		
保育士の業務と保育相談支援		1
保育士資格法定化・保育士資格法定化の意義と保護者支援		
保育相談支援の原理		1
子ども家庭福祉の原理と保育士の役割・原則と基本		
保育相談支援の構造・展開と相談援助との関係		1
保育相談支援の構造と展開・保育相談支援と相談援助		
保育相談支援の価値と倫理		1
保育相談支援における倫理・保育所保育指針における保護者支援の価値と倫理		
信頼関係を築く受容と自己決定の尊重		1
保護者を受け止める・自己決定の尊重・信頼関係の捉え方		
他の社会的資源との連携・協力		1
連携・協力の必要性・保育相談支援の特性と限界・地域資源や関係機関		
保育を基盤とした保育相談支援		1
専門的援助である保育相談支援・保育の特性に基づく保育相談支援		
保育相談支援の方法と技術		1
保育相談支援で活用される保育技術・保育相談支援の技術		
保育相談支援の展開過程		1
保育相談支援の展開過程について・保育相談支援の展開過程の実際		
環境を通じた保育と保育相談支援(1)		1
保護者との信頼関係を形成する環境・保護者の日常生活を支える環境		
環境を通じた保育と保育相談支援(2)		1
保護者の子ども理解を促す環境・家庭の暮らしを支える環境		
保育所入所児童の保護者への保育相談支援		1

保育相談支援の手段・保育相談支援の評価・特別な対応を必要とする家庭に対する保育相談支援	
保育所の地域子育て支援における保育相談支援 地域子育て支援の特性と限界・保育相談支援の手段・評価	1
児童福祉施設における保育相談支援 施設機能に即した保育相談支援の特性・施設を利用する保護者の特性	1
	計 15
	授業単位数 1

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜こども総合科＞

科目名	保育表現技術演習	
担当教員の実務経験	幼稚園教諭経験者	
対象学生	こども総合科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [   ]	
授業の概要	本教科は保育における言語的な表現技術を学修し、保育に関する基礎理論、保育内容、保育技能等、学修した知識・技能をこの保育表現技術の中で活かし、それらの体験を通して、保育における表現技術をスキルアップし、総合的に深めていくことを目的としている。同時に保育者に求められる人間性の醸成をはかっていくものである。	
授業の到達目標	授業を通して総合的な表現技術を身につけ、自己の課題発見を行う。レポートおよび科目試験の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	駒井美智子、他『保育者のための幼児文化教材「理論と実践」』大学図書出版。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
シラバスの確認・授業展開及び期末課題の確認 保育とは何か、確認する。		1
保育とは何か・意義と目的（保育の質と組織活性化について）		1
保育教材の意義と保育活動における教材の必要性について		1
保育教材の三機能について（教育性・興味性・児童性）		1
保育教材の支援と援助について（二重の支援について）		1
保育教材の必要性について 何故保育教材は必要なのか、保育者の表現力について考える。 （おはなし・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・絵本等）		1
保育教材の作成企画 おはなし・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・絵本等 実際に作成企画案をたてよう。		1
保育教材の作成① おはなし・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・絵本・手遊び等 実際に作成しよう。		1
保育教材の作成② おはなし・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・絵本・手遊び等 実際に作成しよう。		1
保育教材の実践 おはなし・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・絵本・手遊び等 実践しよう。		1
保育教材の実践の反省と課題① 保育教材の効果と今後の課題について整理しまとめる。		1
保育教材の実践の反省と課題② 現代社会の子どもを取り巻く環境において保育教材の効果を考える。		1
保育教材の実践の反省と課題③ 現代社会の子どもを取り巻く環境において保育教材の効果を考える。		1
幼児の発達段階に即した保育教材とは何か、整理しまとめる。統合保育・多文化保育等についても考える。		1

日常保育活動の中での保育教材を考え整理する。	
保育者の表現力を育てるにはどうしたらよいか。 身体表現・言語表現・音楽表現・造形表現 自分自身の自己点検をし、課題をみつけよう。	1
	計 15
	授業単位数 1

## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜こども総合科＞

科目名	幼稚園教育実習指導Ⅰ	
担当教員の実務経験	幼稚園教諭経験者	
対象学生	こども総合科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [   ]	
授業の概要	<p>教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園で実際に体験することにより、教育の理解を深め、実践力と教師の使命感を身につけ、教育職としての資質を向上させることを目的とする。</p> <p>本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身につける。具体的には管理運営の理解(教育課程の管理、事務・教務、教育活動一般)、幼児および児童の発達と理解、教材研究、指導の方法、学級経営などについて講義や事例検討を通して学ぶ。また、教育実習における日誌や個人記録の取り方を体得し、このことを通して幼稚園教育の実際や各自の教師としての能力・適性について認識を深める。</p> <p>学生は実習において、幼児および児童との生活や遊び、学習を中心とする様々な教育展開の方法を観察・実習体験し、課題や問題点を細部こびたって反省評価し、指導教師に指導・助言を受ける。その際、幼児および児童の一人ひとりの発達の状況や、家庭との連携の必要とその方法についても認識を広げる。</p>	
授業の到達目標	実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身につける。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	『教育実習(初等)の手引き』。	
授業上の注意点		
授業計画 (内容)		コマ数
講義概要 教育実習の意味 実習に向けての自己課題		1
子ども理解と援助・支援技術の理解 教育環境と子どもの実態		1
実習に必要な心構え、マナー、資質の理解		1
指導案、記入に必要な事項		1
子どもの活動と教師の援助、支援		1
指導案一枚の中の関連		1
指導案の作成 題材、活動内容等の記入		1
指導案の作成 援助、支援等の工夫		1
模擬保育・授業の実施 その1		1
模擬保育・授業の実施 その2		1
模擬保育・授業の実施		1

その3	
子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察	1
その1	
子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察	1
その2	
目指す授業と自己課題の再設定	1
まとめ	1
	計 15
	授業単位数 1



## 授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜こども総合科＞

科目名	幼稚園教育実習指導Ⅱ	
担当教員の実務経験	幼稚園教諭経験者	
対象学生	こども総合科3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [   ]	
授業の概要	<p>教育実習の目標は、大学で学修した知識、技術と一般的な教養を基礎とし、実際の教育現場において、経験豊かな指導教員の下で、幼児との触れ合いを通して、教員となるための基礎的な能力と態度(個別的指導、クラス指導、幼稚園行事等)を養うことにある。</p> <p>本科目では、この目標を達成するために、幼稚園教育実習の反省や評価をもとに、これまで修得した専門知識を振り返り、幼児の生活や発達を理解、幼児の発達を促す指導の在り方(環境構成や教師の援助)についての学修を演習を通して一層深めていく。</p>	
授業の到達目標	保育者に求められる専門的な知識の定着とともに、幼稚園教育をめぐる諸問題及び解決のための取り組み等について知見を広げ、専門性の向上を図る。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	<p>東京福祉大学『教育実習(初等)の手引き』。</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』(平成20年10月)フレーベル館。</p>	
授業上の注意点		
<b>授業計画 (内容)</b>		<b>コマ数</b>
幼稚園教育実習の感想及び課題等をまとめる(子どもとの関係、保育者との関係、保育の展開の仕方など)。実習日誌や指導案の書き方等についての課題を整理する。		1
実習体験を振り返りから、実習の手引きを参考に、実習について、実習生として、実習で役立つ知識(危機管理など、幼稚園実習の基礎・基本)についての要点をまとめる。		1
幼小の連携について、その考え方や検討すべき課題、具体的な連携の例について調べる。小学校以降の生活や学習の基盤とは何か、また、その育成の在り方をまとめる。		1
幼児教育をめぐる問題(少子化、核家族化、情報化、国際化、学歴社会等)について調べ、幼児の生活や発達に及ぼす影響、また幼稚園において取り組むべき課題などについて整理する。 家庭との連携や保護者の子育て支援の考え方や具体的な進め方等についてまとめる。		1
「環境を通して行う教育」の意義について復習し、理解を深める。 幼児の主体性を保障した保育はどのように展開するのかをまとめる。(計画の作成、保育実践、反省・評価)		1
3歳児～5歳児について、年齢別の生活や発達の特徴、指導のポイントなどについてまとめる。(事例研究)		1
実習体験を振り返り、部分実習指導案の作成に関わる自身の課題を明らかにする。 幼児の実態の把握の仕方、指導のねらいや内容の設定の仕方等について、教科書や参考文献等を読み、理解を深める。		1
幼稚園の一日を想像しながら、保育者(実習生)の役割や留意点等を調べる。 部分実習指導案と一日実習(責任実習指導案)違いと作成上の留意点をまとめる。 ※一日指導案の様式は『教育実習(初等)の手引き』掲載のものを使用する。		1
模擬保育(一日)指導案を作成に向けて、対象年齢、幼児の姿、季節や時期、幼稚園の規模、一斉に行う活動(※)、食事の仕方、登園時刻や降園時刻、一日の時間の区切り方などを検討し決定する。 ※一斉に行う活動は、絵本や紙芝居、歌や楽器遊び、体の動き、手遊び、絵画や製作、運動遊びなどから選定する。		1
模擬保育(一日)指導案の作成と教材研究①(素材や材料の準備、教材の作成や準備、試作や実技練習) ※一日指導案の様式は『教育実習(初等)の手引き』掲載のものを使用する。		1
模擬保育(一日)指導案の作成と教材研究②(素材や材料の準備、教材の作成や準備、試作や実技練習) ※一日指導案の様式は『教育実習(初等)の手引き』掲載のものを使用する。		1
模擬保育(一日)指導案について検討会(グループ又は個々で科目担当教員も参加)		1

模擬保育(一日)指導案の改善と教材研究③(完成させた指導案と教材研究の結果をまとめて提出する)	1
指導の改善充実に生きる記録の取り方や反省・評価の仕方について調べる。 「省察」について調べる。 「幼稚園幼児指導要録」について調べ、指導要録の意義や作成の仕方について学修する。	1
保育者としての専門性をより向上させるために、今後力をいれて取り組みたいことをまとめる。	1
	計 15
	授業単位数 1